

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2015-09-01

No. 68



株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所

<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 24 Ed. 2.0 (2015-04) 修正案 1 情報技術機器 - イミュニティ特性	3
IEC: 新規格リスト	6
ISO: 新規格リスト	8
UNECE: 国際テーマ: 規制 No. 10 (電磁両立性)の 04 及び 05 シリーズへの補足	9
UNECE: 国際テーマ: 規制 No. 10 (電磁両立性)の 05 シリーズ修正への補足	10
国際テーマ: インド製品登録制度 (CRS) 追加品目の延期	12
国際テーマ: ユーラシア関税同盟の最新情報	12
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	13

USA: FCC: Part 0, 2,15,18: 無線デバイスの機器認証及び電子ラベリング	14
USA: FCC: テレビ放送周波数帯、及び 600 MHz 帯免許不要規則を採択	18
USA: FCC: ワイヤレスマイク規則を採択: テレビ放送周波数帯の再編後処置	19
USA: FCC: KDB: Part 15 の非意図的および意図的放射器の適合試験 測定手順	20
USA: FDA: 認定規格リストへの修正点、認定リスト番号: 040	21
USA: DOE: ディスプレイ基準 Ver7.0: 最終草案について	21
USA: DOE: 外部電源は、DOE のエネルギー効率要求事項レベル VI を満たすこと	22
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	23
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	24
USA: IEEE: 新規格リスト	25

EU: チュートリアル: 欧州への商品出荷の基礎知識: CE マーキングと指令の特定(3/4) ..	27
EU 製品規則の実施に関する 'ブルーガイド' が更新された	28
EU: CENELEC: 新規格リスト	29
EU: ETSI: 新規格リスト	31
ニュージーランド: 無線通信 (EMC 規格) 通知 2015 発行	32

中国: CNCA: 強制性製品認証リスト製品と 2015 年 HS コードの対応参考表の発行	33
中国: CQC: 電動車いすの認証業務を立ち上げ、開始	33
中国: CQC: 800/900MHz の無線 IC タグの性能評価業務開始の通知	34
中国: CQC: 電気機器の相互接続ケーブルの認証サービスの開始のお知らせ	34
中国: CQC: 太陽光発電製品の「リーダー」認証プログラムの立ち上げに関する通知	35
中国: CQC: オートバイ製品の省エネルギー認証業務開始に関する通知	36
中国: CQC: コンピュータ等用ユニット式エアコン製品の省エネルギー認証	36
中国: CQC: 集中絶縁バスバーの省エネルギー認証用規格の版変更および規則改訂	37
中国: 新規格リスト	37
台湾: 新規格リスト	38
韓国: 電気用品安全管理運用要領 改訂 (案) 立案予告	39
韓国: 電気用品安全管理運用要領 改正告示	40

総務省: ニカラグア共和国における地上デジタルテレビ放送、日本方式採用	41
総務省: 「4K・8K ロードマップに関するフォローアップ会合 第二次中間報告」の公表 ..	41
総務省: 平成 27 年「情報通信に関する現状報告」(平成 27 年版情報通信白書)の公表 ..	42
総務省: 5.8 GHz ~ 7.5 GHz 帯固定通信システムの高度化等に係る技術的条件導入	42
総務省: 60 GHz 帯の周波数の電波を利用する無線設備の高度化に伴う制度整備	43
経済産業省: 「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」の一部改正	44
ちょっといっぴく: 小クイズコーナー ユーラシア関税同盟の新加盟国について	13
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	26
コスモスからのご案内: 欧州 3 指令 (新無線機器指令等) 比較表 V. 2 販売のご案内 ..	28
社長の独り言	45



IEC: 規格解説: CISPR 24 Ed. 2.0 (2015-04) 修正版 1 情報技術機器 イミ ユニティ特性

CISPR 24 Edition 2.1 (2015-04) 情報技術機器 イミユニティ特性 限度値及び測定の方法が、発行された。主な内容を解説する。

- 「静電気放電 (ESD) 4.2.1」における変更
「接触放電には、表 1 に規定の試験レベルより低い電圧で放電を適用することとは、要求されていない」ことが明確に規定された
- 「連続的無線周波妨害、一般項」での変更
従来第 1 版にあった「4% のステップサイズ、但し 2 倍の妨害波レベル」にての試験が可能という規定が、第 2 版で削除されていた。今回第 2 版の修正版 A1 で、又復活した。
- 「付属文書 A (規制) 電話端末機器」における変更
「A.2.6 測定方法: デジタルラインに送られる復調信号」項を新規に追加 等

UNECE: 国際テーマ: 規制 No. 10 (電磁両立性)への 05 シリーズ修正への補 足

- 高周波放射イミユニティに関するパラグラフ 6.4.2.1 の"周波数の 90%"要求との適合を容易にするため、「付属文書 6, パラグラフ 4.1 項」に、周波数ステップサイズの推奨は以下の表によることと具体的に規定するよう、変更。

UNECE: 国際テーマ: 規制 No. 10 (電磁両立性)の 04 及び 05 シリーズへの補足

USA: FCC: Part 0, 2,15,18: 無線デバイスの機器認証及び電子ラベリング

- 本規則制定提案の通知 (NPRM) の目的は、RF デバイスの評価及び承認を管轄する規則を更新することである。本提案は、委員会がその機器認証手続き規則を変更するため最近取った措置に、基礎をおいている。
- 自己承認手順を単一化: 委員会は、二種類の製品承認プログラム 適合宣言 DOC 及び検証 verification を、一つの製品自己承認プログラム “供給者適合宣言 SDoC” に統合することを、提案。
- 証明済み機器への変更: 「デバイスの全体の機能を本質的に変更しないような 部品を含んだレイアウト、運用ソフトウェア、又は一般的な電氣的または機械的構造に於けるバリエーション内の一定の変更は、新しい FCC ID を要求しない」よう提案
- ラベリングに関する提案: 組み込み式電子表示を備える無線周波デバイスが、要求される全てのラベルを電子的に表示することを許容する。これには、FCC ID、並びに、委員会規則によりデバイスの物理的ラベル上に記すことが要求されているあらゆる警告声明又は他の情報が含まれる。電子ラベル情報は第三者による変更防止手段を備えていなければならない。

USA: FCC: テレビ放送周波数帯、及び 600 MHz 帯免許不要サービス 規則 を採択

- 今回採択された新規則は、免許不要の固定およびパーソナル/ポータブルホワイトスペース機器、および免許不要ワイヤレスマイクロホンに、600 MHz 帯およびテレビ放送周波数帯を使用することを認め、同時にテレビおよびその他の免許サービスの有害干渉からの保護を継続するだろう。

経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」の一部 改正

- 「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」の一部改正に対する意見募集が開始された (~平成 27 年 9 月 17 日まで)

社長の独り言

2015年8月21日
濱口 慶一

皆様、残暑厳しい毎日ですが元気でお過ごしのことと、祈念致します。

私は、毎年夏には太る傾向があり、減量というか、増えた分をどのように落とそうかと苦労の日々ですが、味覚の秋に近づけば近づくほど、体重が増えてしまう最悪のパターンに陥っています。

先日、コスモス・ニュースでもご紹介致しましたが、今年も KEC 関西電子工業振興センター主催で行われた iNARTE の製品安全資格試験に 8 名の受験者を送り、7 名がライセンスを取得することが出来ました。弊社は、NEMKO の CBTL として永く活動してきました。その中で NEMKO のエンジニアから、機会あるごとに教育を受け、その時代で要求される技術の取得維持向上に努めてまいりました。国内の認証業務をさせていただくにあたり、ISO/IEC 17065 及び ISO 17021 などの規格への組織に対する要求が近年強く求められるようになり、今までは、事業主が適切な力量を有すると判断し、任命するという対応で監督省庁に認めていただいておりますが、最近では担当者が「有資格である」ことが明確に求められています。社員教育を徹底して、有資格者を増やしていきたいと思っております。今回は、最近興味を持った本をご紹介したいと思っております。三冊あります。

一冊目は、ダイヤモンド社から出ている、「トヨタの自分で考える力」（原マサヒコ氏著）です。日頃、スタッフに対して色々と指導する中で、私の口癖の「機械は壊れるのではなく、壊すことのほうが多い」などは、自分の言いたかったことが明確に説明して書かれています。また、書き出しには「トヨタには、日々の仕事の中でそうした力を鍛えるための思考の型がある」とかかれており、「改善思考」、「横展思考」、「現場思考」、「真因思考」、「行動思考」について説明されています、日々の問題発生への対応での思考についてよく理解できるし、身につけたいものです。

二冊目は、「R-Map 実践ガイドンス」(日科技連 R-map 研究会著)です。製品安全業界にて活動させていただいている私達ですので、関係する製品が、適用を求められる製品安全規格に対応していれば良いとの考えに陥りやすいですが、本来、当該製品安全規格に対応して設計開発した製品であっても、市場に出す形となった時点で再度、リスク分析をして、使用者や機器の周辺で活動しうる人間やペットなどに危害が生じないかのリスク分析をさらに行い、安全を確信した形で製品を市場に投入することが大切な作業となると考えています。カバーにも書かれていますが、この本の特徴は、全ライフサイクルに対応した製品安全リスクマネジメント手法として紹介している所です。

最後の一冊は、日刊工業新聞社発行の「インダストリー4.0」です。開発設計に関わる方が多い読者の皆さんは既に購入されて読まれていると思います。製品安全業界にてお客様の開発製品に深く関わらせていただいている者として、産業界が今後どのように発展していくのか等が最大の興味なのですが、日本も少子化がドンドン進み、ちょうど私のような戦後のベビーブーム世代が現在の日本経済の中心から去った後は、一説では 1 億 2 千の人口が 9000 万人位まで減るとされています。その頃の日本企業の多くは、単純に考えて 1 億 2000 万人がいた頃の経済時から、約 25%位の売上減少が現実になってくると言われています。工場や事務所での働き手の減少を乗り切るには、IT での人間補佐技術を大幅に開発して現実の業務に取り入れていくことが、企業の生き残る一つの方法だとも言われています。ドイツでは、早くから国と民間と大学との産学での取り組みなどで既に大きな成果が出て来ています。そのような事例を含めて、今世紀の産業革命とでもいうべき「インダストリー4.0」を是非、一読下さい。

という私も、毎月癖のように新刊や読みたい(?)本を購入するのですが、多くは内容確認程度のパラパラ読みと気になったページの熟読で終わっているので、著者の真意を理解しているのかは心配なところ です。

では皆様方、もう少し残暑が続きますので御自愛下さい。ご活躍を祈念致します。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション 業務推進部まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

- 本誌の内容案内、ご購入案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準検局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC& Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2015-09-01 (No. 68)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレーション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2015 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。